

# 城郭だより

日本城郭史学会会報

〒168-8501 東京都板橋区  
板橋北野郵便局私書箱第50号  
TEL 03-3967-1948

第130号 令和7年7月

## 幻の「安土城下町」か？ 「西の湖」湖岸に整然と積み重ねられた石垣を発掘

国指定特別史跡「安土城跡」の南西約一キロメートルにある琵琶湖の内湖「西の湖」の湖岸で安土城の城下町のものと思われる石垣が見つかった。城跡からさほど離れておらず、石垣の一部が整然と並び本格的な積み方であることなどから、滋賀県近江八幡市は安土城に関連する城下町の石垣の可能性が高いと判断した。今後、城の石垣と比較するなど調査を進め、石垣が築かれた時期や用途を探りたいとしている。

安土城は天正四年（一五七六）に築城が開始され、同七年に完成した。同十年の本能寺の変の後、總見寺と石垣を残し焼失した。今回の発掘調査は、昨年八月から十月に実施された宅地開発のための事前発掘調査で、市は約三百平方メートルを発掘調査、以前から石の列が見えており、深く掘ったところで石垣が出てきた。湖岸から約五十メートルの畑地から長さ約十七メートル、高さ最大約一・

### 石垣を発掘

六メートルの石垣が見つかった。大小さまざまな石材で四段前後に積み重ねられ、多くはこの一帯で採掘される「湖東流紋岩」が使われている。積み重ねられた石材のうち、主に下二段分は整然とほぼ横に並んで積み重ねられていた。一方、上段分は斜めに積み重ねられていたり、比較的小さい石材で隙間を埋めたりしており、後世に積み直されたと思われるという。近江八幡市によると石垣と一緒に出土した国内産の陶器片や中国製の白磁片の様式などから石垣の基部は安土城築城と同時期の十六世紀後半頃の石垣とみられると判断した。市によると、一九九六年度にも今回の発掘場所から南に約二百メートルの地点で長さ約五メートル、高さ約一・六メートルの石垣が見つかるなど、これまでさまざまな石垣が確認されているが、城下町の実体は分かっていないという。周辺はかつて琵琶湖の水辺で、石垣の用途としては城下への敵の侵入を防ぐ役割や

護岸、水運で物資を運ぶ際の着岸施設などが考えられるとし、市の担当者は「これまで安土城の城下町の大規模な調査は行っていないので、なぜ、石垣が必要だったのか分かっていない。安土城の石垣と比較するなどして手がかりを得たい」としている。

現地を視察した中井仁滋賀県立大学名誉教授の話では「城下町の実態は安土城以上に分かっておらず、重要な発見。城から比較的離れた場所にあるので城本体の石垣ではないものの、比較的大きな石材を使って整然と積み重ねられていることなどから安土城と関係が深く、同時期に造られたと考えられる。公的な港湾施設の一部の可能性もある。」としている。

（読売新聞二〇二五年四月四日記事より）



新たに確認された安土城の城下町のものと思われる石垣

### 日本城郭史学会 催物・見学会・セミナー案内

八月セミナー

「御家人渋谷定心とその一族経営―定心置文を解読する」

幕府奉公とその一族統制の狭間で多くの課題を抱える相模国御家人渋谷氏。惣領の定心が遺した置文から一族再生への道を考える。

会場 板橋区立グリーンカレッジホール3階教室2  
講師 伊藤一美氏（史学会委員・鎌倉考古学研究所）

九月セミナー

「小田原城の考古学―四〇年の発掘調査成果を読み解く」

小田原城は一九八二年の御用米曲輪から発掘調査が本格化し、今日までに六〇〇カ所を超えています。近世は絵図の通り、戦国は近世とは異なる縄張りや遺構の構成が見えてきました。

会場 板橋区立グリーンカレッジホール3階教室1A  
講師 諏訪間 順氏（小田原城天守閣特別館長・明治大学客員研究員）

十月見学会

鎌倉街道中道の拠点を歩く

鎌倉街道中道・下道の七切通に入る手前において防御の拠点となりうる場所を歩きます。開発で失われたところも地名や道筋で当時を知ることが出来ます。また、知られていない立ノ内の大土塁を道に沿って見学します。

集合日 10月25日（土）  
集合場所 JR京浜東北線・根岸線 本郷台駅改札口 12時40分集合  
講師 大竹 正芳氏（史学会委員）

コース 駅―小菅ヶ谷殿跡―立ノ内（五社稲荷神社周辺）―大長寺―高野―長窪切通―甘粕家長屋門―離山跡―JR大船駅（解散5時予定）

参加費は八月・九月・十月共に会員一〇〇〇円 会員外一五〇〇円